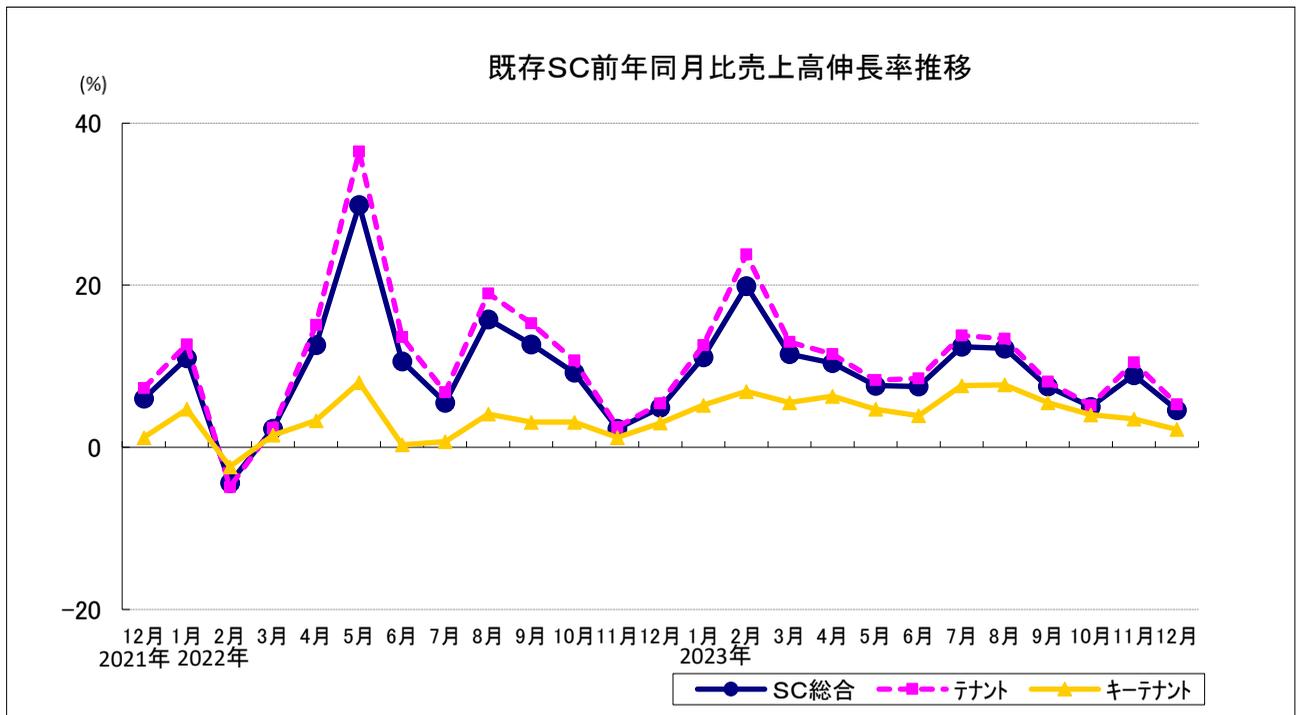


**SC年間販売統計調査報告2023年**  
**既存SC前年比伸長率: +9.6%** (参考: 2019年比: ▲4.2%)  
**SC年間売上高(推計) 30兆8,787億円(前年比+9.9%・消費税抜・全SCベース)(速報値)**  
**新型コロナウイルス5類移行による外出機運の高まりや**  
**インバウンド客増が売上げに寄与し、前年を上回る**

<全体概況>

- 2023年(暦年)の既存SC売上高(総合)は、2022年比で+9.6%の伸長率となった。コロナ禍前の2019年比では▲4.2%となったが、2022年の同▲11.8%からは着実にマイナス幅が縮小し、売上回復基調が続いた。
- キーテナントを除くテナントは前年比伸長率+10.7%となった。2023年は1月に全国旅行支援が再開したことや4月に水際対策措置が撤廃されたことで、国内旅行者やインバウンド客の来館が売上げに寄与した。ファッション業種では、猛暑の影響で盛夏衣料が高稼働した一方、秋以降はなかなか気温が下がらなかったため秋冬衣料は苦戦した。飲食業種は、旅行者や近隣イベント参加客などの来館により、一年を通して好調だった。
- キーテナントは前年比伸長率+5.5%となった。旅行者やインバウンド客の来館により、とくに百貨店が好調だった。食品品を扱うスーパーは、商品の価格高騰により客単価が増加した。
- 月別の動向をみると、2020年のコロナ禍以降初めて、通年で前年比プラスで推移した。1月(+11.1%)は、全国旅行支援が再開し、寒波の影響で重衣料が稼働したことで2桁台のプラスとなった。2月(+19.9%)は、前年同月にまん延防止等重点措置があった反動や引き続き実施されていた旅行支援により、全国的に好調だった。3月(+11.5%)、4月(+10.4%)は、マスク着用が個人判断になったことや旅行支援、春休みなどで来館者が増え、2桁台のプラスが続いた。5月(+7.6%)、6月(+7.5%)は、新型コロナウイルスの5類移行で外出機運が高まったことや、国内外の旅行者の来館が売上げにつながった。7月(+12.4%)、8月(+12.2%)は、全国的に猛暑が続き盛夏商材が高稼働した。9月(+7.5%)、10月(+5.0%)は、気温が高い日が続いたことで秋物商材が苦戦したものの、インバウンド客の来館や飲食業種の好調によって前年を上回った。11月(+8.9%)は、月後半から気温が低下したことで冬物商材が稼働した。12月(+4.6%)は、暖冬の影響で冬物商材が苦戦したが、冬休みや忘年会需要で飲食業種が売上げを牽引した。



以上

この件に関するお問い合わせは 情報・リレーション部: 菰田・木口  
TEL: 03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りくださいますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当: 浅田・菰田・木口・村松  
 { Tel. 03-5615-8524 / Fax 03-5615-8539 }  
 { Mail.pr@jcsc.or.jp }